⑩日本国特許庁(JP)

Mint. Cl. 5	識別記号	庁内整理番号	② 公開	平成4年(1992)3月2日
B 65 H 3/56 B 41 J 13/00 B 65 H 1/04 G 03 G 15/00	330 E	9148-3F 8102-2C		
	3 2 6 A 3 0 9	8308-3F 7369-2H		
		審査請求	未請求	青求項の数 1 (全4頁)

②発明の名称 給紙機構

②特 願 平2-179242

②出 願 平2(1990)7月5日

@発・明 者 佐 藤 克 彦 東京都江東区亀戸6丁目31番1号 セイコー電子工業株式

会社内

勿出 顕 人 セイコー電子工業株式 東京都江東区亀戸6丁目31番1号

会社

個代 理 人 弁理士 林 敬之助

明如物

1. 発明の名称

給紙機構

2. 特許請求の範囲

独立した弾性押圧を与える機能を有することを特 徴とする給紙機構。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、複数のシート紙が収納された給紙カセットから摩擦ローラによってシート紙を選択的に一枚ずつ取り出す給紙機構に関するものである。 (従来の技術)

従来、復写機やブリンタ等に使用される用紙は、 規格によって大きさが決まり使用者にとって整理 や取り扱いの面等で有利なシート紙が主に用いら れており、このシート紙は一般的に、何枚かまと めて積層整列状態で給紙力セット内に収納され、 その中から給紙機構によって、使用時に積層整列 の最上位面または最下位面部分から選択的に一枚 ずつ取り出して復写機やブリンタ等に給紙が行わ れている。

前記給紙機構は、積層整列されたシート紙の中か ら選択的に一枚ずつ分離してシート紙を取り出す ために、摩擦力や吸着力を用いた給紙方式が各種 実用化されているが、この中で最も多く用いられ ている給紙方式は、構造面で極めて簡略で、小型 ・安価に構成できるコーナ爪方式が主流となって いる。

上記のような構成によれば、コーナ爪方式の構成部品点数を1個まで削減できる。

(実施例)

以下に、本発明の実施例を図面に基づいて説明

する。

第1図は、本発明による給紙機構のシート紙押さえ第1の実施例で、断面形状が円形または角形で弾性を有する線材の曲げ加工により、中央には固定用凸部1、両端近傍にはシート紙の一端の2箇所のコーナ部を押さえる押圧部2が形成され、 更に、両端には褶動ガイド用凸部3を値えたシート紙押さえ4は、左右面対象の形状を有する。

第2図は、第1図に示したシート抵押さえを給 紙カセットに組み込んだ給紙機構の透視図を示し たもので、給紙カセット5の中に組み込まれた押 圧板6と押圧板6の下に位置する押圧ばね7によ り下から上方向に弾性押圧が与えられた積層整列 状態のシート紙8は、左側2箇所のコーナ部をシ ート紙押さえ4によって上から下方向に弾性押圧 状態で押さえられ、シート紙押さえ4の近傍のシ 爪が各々独立し、押圧用ばねを備えているのは、 給紙時にシート紙を安定的に保持し、給紙カセッ トに収納されたシート紙を一枚ずつ最後の1枚ま で確実に給紙を行うためのものである。

(発明が解決しようとする課題)

上記のような従来の技術では、給紙カセット内で厚さ方向に積層整列されたシート紙の最上位面または最下位面の一端のコーナ部2箇所に弾性押圧を与えてコーナ爪方式のコーナ爪機能を満足させるために、最低でもコーナ爪2個とばね2個、合計4個の部品を必要とし、構成部品点数削減・構造領略化が行えず、加工や組み込み性・コスト面で課題を有していた。

(課題を解決するための手段)

上記の問題点を解決するために、本発明においては、コーナ爪方式による給紙機能を基本的に構足させながら、構成部品点数削減のために、弾性材による一体成形部品1個で必要とする2組のコーナ爪の機能を果たせるようにした。

(作用)

ート紙8の最上位面に圧接させた摩擦ローラ9の 押圧と蹴り出し力により、シート紙 B の量上位面 の一枚は、シート紙押さえ4の近傍で座屈と弾性 反発力によってシート抵押さえ4から選択的に左 側の給紙方向に飛び越し解放されることで、積層 整列状態のシート紙 8.は、常に最上位面から一枚 ずつ給紙動作が行われる。ここで、シート紙押さ えるの固定用凸部1は、給紙カセット5の給紙方 向側面にはめ込み固定され、更に、両端の摺動ガ イド用凸部3は、給紙カセット5の幅方向側面2 箇所に設けられた長穴に上下動可能な状態ではめ こまれているため、摩擦ローラ9の押圧力やシー ト紙8の分量や形状むら等の変動に対して、固定 用凸部)を支点に、常に左右独立したばね圧で適 宜上下動追従し、シート紙8の左側2箇所のコー ナ部で隙間が生じないように機能することで、安 定した拾紙動作が行われる。

第3回は、本発明による給紙機構のシート紙押 さえ第2の実施例で、弾性を有する板材の曲げ加 工により、中央とその近傍には固定用凸部10と 左右2つの平行ばね部11、両端近傍にはシート紙の一端の2箇所のコーナ部を押さえる押圧部12が形成され、更に、両端には摺動ガイド用凸部13を備えたシート紙押さえ14は、左右面対象の形状を有する。このように形成されたシート紙押さえ14は、前記シート紙押さえ第1の実施例のように給紙カセットに組み込まれ、同様に機能動作する。

第4図は、本発明による給紙機構のシート抵押さえ第3の実施例で、断面形状が円形または角形で弾性を有する線材の曲げ加工により、中央には固定用凸部15、両端近傍にはシート紙の一端では一個では、関には増動がイド用凸部17を備えたシート紙押さえ18は、左右面対象の形状を有する。このように形成されたシート紙押さえ18は、前記シート紙押さえ第1の実施例のように給抵カセットに組み込まれ、同様に概能動作する。(但し、固定用凸部15は、押圧板6の下の給紙カセット5の底部にはめ込み固定される。)

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の給紙機構のシート紙押さえ第1の実施例を示す針視図、第2図は第1図のシート紙押さえを組み込んだ給紙機構を示す透視図、第3図は本発明の給紙機構のシート紙押さえ第2の実施例を示す斜視図、第4図は本発明の給紙機構のシート紙押さえ第4の実施例を示す斜視図、第5図は本発明の給紙機構のシート紙押さえ第4の実施例を示す斜視図である。

- 1. 10. 15. 19 · · 固定用凸部
- 2. 12. 16. 20 · 押圧郎
- 3. 13. 17. 21・・摺動ガイド用凸郎 .
- 4. 14. 18. 22・・シート紙押さえ
- 5・・・・・給紙カセット
- 6 · · · · 押圧板
- フ・・・・押圧ばね
- 8・・・・シート紙
- g····摩擦ローラ

第5図は、本発明による給紙機構のシート紙押さえ第4の実施例で、弾性を有する板材の曲げ加工により、中央には固定用凸部19、両端でははシート紙の一端の2箇所のコーナ部を押さえる神圧の一次では、更に、両端には摺動ガイド用凸部21を備えたシート紙押さえ22は、たち面対象の形状を有する。このように形成が3の実施例のように給紙カセットに組み込まれ、同様に機能動作する。

(発明の効果)

本発明は、以上説明したように、コーナ爪方式のコーナ爪機能を基本的に満足させながら、従来コーナ爪機能達成のため4部品以上必要としていた構成部品点数を弾性材の一体成形による1部品まで削減可能となったことから、複写機やブリンク等に用いられる給紙機構の構造簡略化や、加工や組み込み性の向上、更に、コスト面でも大きな利点を得ることができ、その効果は極めて絶大である。

11・・・平行ばね部

以上

出職人 セイコー電子工業株式会社 代理人 弁理士 林 敬 之 助





